社　会（中）部　会

Ⅰ．研究の概要

１．研究主題　　**変化が激しい時代を乗り越え、自ら社会を創造する子どもの育成**
～思考・判断・表現の力を高める単元デザインの工夫を通して～

２．主題設定の理由

石中社では、平成２２年度から「未来をきり拓く力をつけた子どもの育成」という研究主題を設定し、平成２９年度まで３次にわたる研究に取り組んできた。平成３０年度からは主題をそのままに、副主題を「社会的な見方・考え方を働かせて、学びを深める授業と教材・教具の工夫」と定め、２年計画で「社会的な見方・考え方」を働かせて、思考力、判断力、表現力を更に深めるための研究を進めることとした。

２１世紀の社会は知識基盤社会であり、新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増している。それは今後も変わらないと捉えられるが、近年、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となっており、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えた進展が顕著になってきている。「第４次産業革命」ともいわれる進化した人工知能によって「人工知能が人間の職業を奪うのではないか」といった未来予測も多く発表されていたり、グローバル化が進展する中で先を見通すことがますます難しくなったりしている。このような「変化が激しい時代」だからこそ、社会科教育の担う役割は大きいと考える。

主題が掲げる「自ら社会を創造する」とは、上記のような変化が激しい時代を乗り越えるために、「子どもたちが自信を持って自分の人生を主体的に切り拓き、よりよい社会を創り出していくこと」と定義付け、そのために必要な「未来社会を切り拓く力」を確実に育成していくことを目指していくものとする。

３．研究仮説

単元を貫く学習課題を適切に設定し、指導内容や学習活動に応じて工夫した授業を展開することで、思考・判断・表現の力を高め、主体的に社会に関わる力やコミュニケーション力などの力を身につけた「自ら社会を創造する子ども」を育成することができるであろう。

４．研究の年次計画

【１～３年次】　　思考・判断・表現の力を高める単元デザインの工夫を通して

５．研究方法

（１）市町村研究部会と連携を図り、推進委員を通して部会員に研究内容を周知して、個人単位または学校単位で課題に取り組む。そして、その成果を専門部会第二次研究協議会で交流する。
（２）研究内容を踏まえた授業について、公開授業担当市町村から出された授業者と共同研究者、本部会役員等で検討を重ね、専門部会第二次研究協議会で公開する。また、北・中・南の各ブロックで研究授業を公開し、研究協議を行う。
（３）研究員およびプロジェクト研究員（小委員会）が中心となって研究試案を作成し、本部会の HP にアップする。

Ⅱ．実践の経過と成果

１．実践研究の経過

4月12日（火） 中旬	専門部会第一次研究協議会、第１回役員研修会、第１回推進委員会 　→今年の部会研究についての確認 市町村第一次研究協議会
5月31日（火）	専門部会役員研修会 　→今年度の部会研究の進め方について
6月14日（火） 21日（火）	第１回指導案検討会、第２回役員研修会 　→研究授業の指導案検討、専門部会の活動について 第１回事務局長研修会
7月15日（金） 7月19日（火）	プロジェクト研究員による提案授業　授業会場：江別市立第一中学校（斎藤俊生教諭） 第２回推進委員研修会　第３回役員研修会 　→専門部会の活動の進め方について　　今年度の研究の見通しについての周知 　　各市町村の部会員への周知のお願い
9月12日（月） 26日（月） 28日（水）	第３回推進委員会、第５回役員研修会 　→公開授業指導案検討 公開授業撮影　　千歳市立青葉中学校　相澤　智　教諭　（公民分野） 公開授業撮影　　千歳市立富丘中学校　滝澤　佑太教諭　（地理分野）
10月14日（金）	専門部会第二次研究協議会　　全体会場：千歳市立富丘中学校
11月16日（火）	第６回役員研修会 　→今年度の反省・総括 『石狩の教育』原稿提出（研究員）
1月12日（木） １月中旬	実技理論研修会 　→「スパイダーウェブ討論を用いた社会科教育の在り方」 北広島市立東部中学校　佐藤泉英教諭 第３回推進委員研修会　　第７回役員研修会 　→今年度の反省・総括　　次年度の研究の方向性について 「石教研情報」原稿提出（副部長）
２月上旬 中旬 下旬	各市町村第三次研究協議会 　→次年度研究内容の概要提示 第４回推進委員研修会　　第８回役員研修会 「会計簿」「部会活動記録綴り」提出（事務局次長）

２．研究を推進するためのプロジェクト試案と研究授業について

（1）今年度の研究について

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、第二次研究協議会をはじめ、様々な研修会や公開研究授業等が以前のような状況で行うことは難しかった。このような状況の中で、各市町村の推進委員の先生方にご協力をいただきながら、共同研究の歩みを進めることができた。

研究を進めるための参考に、研究員による試案をホームページに掲載した。

授業公開については、三分野（地理・歴史・公民）公開の取組を進めるため、プロジェクト研究員の試案による授業を一つ、二次研究協議会での二本の授業公開を行い三分野を網羅した研究となっている。今年度プロジェクト研究員が授業公開した試案を掲載する。

（２）歴史的分野公開授業交流　　プロジェクト研究員：齊藤　俊生　教諭（江別市立第一中学校）

段階	時間(分)	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導入	5	○内憂と外患を振り返る		
		課題：天保の改革の背景は、他の改革と比べてどのような特徴があったのだろう		
展開	10	**享保・寛政・天保の改革を振り返る（天保は背景のみ）**		
		○教師の説明を聞き、各改革の内容を聞く	○享保・寛政・天保の改革を振り返り本時の学習につなげる	知識技能
	22	○グループ活動	○話し合いの方法を確認する	
		天保の改革の背景は、他の改革と比べてどのような特徴があったのだろう		
		①ふせんに改革の目的を記入する ②ベン図に貼り付ける（7分） ③貼り付けたふせんを動かしながらベン図チャートを完成させる（5分）	○比較をする際には、「共通点」「違い」を意識して考えさせるようにする ○時代背景に着目させる	
		④享保の改革・寛政の改革と比べて、天保の改革の背景にはどのような特徴があったのか、まとめの文章を作成する（１０分）	○まとめの文章は「共通点」「違い」に触れながら完成させる	思考判断表現
	10	○グループごとに話し合いの結果とまとめの文章を発表する	○まとめの発表は各班２人が前にきて発表する。発表が終わったらホワイトボードを黒板に貼ってから自席に戻る	
終末	3	○まとめを聞く		
		まとめ：幕府の財政難とききん対策に加えて、「外国の接近への対応」という特徴があった。		

・成果

提案内容として、「単元デザイン」の工夫となった。１回の授業だけでなく、単元を貫いて、生徒にどのような学びを獲得させるのかが授業のポイントになった。学習者が自分の視点で、見方・考え方を働かせながら、ペア学習やグループ学習で知識を定着させながら子どもたち自身がまとめに向かって主体的に取り組む姿が見られた。　次年度以降も、役員の提案授業を継続させていく。

３．専門部会第二次研究協議会での交流研究

（１）交流内容（公開授業交流　動画視聴）

２年生　地理的分野　日本の諸地域　－「中国・四国地方」－

・授　業　者：滝澤　佑太　教諭（千歳市立富丘中学校）

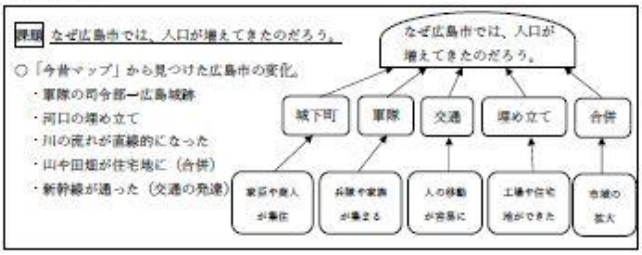
・本時の目標：「なぜ広島市では人口が増えてきたのだろう？」

①本時の様子

	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導入 5分	○前時の復習 ○資料「広島市の人口と面積の変化」を読み取る。	広島市の人口が急速に増加したことを確認し、中国・四国地方の主要な都市と人口を比較することで、学習への関心を高める。	
	なぜ広島市では、人口が増えてきたのだろう。		
展開 8分	予想を発表する。	ワークシートを配布する。	
	見つける 資料「今昔マップ」から広島市の過去（大正時代）と現在の変化を探し、ワークシートにメモする。	吹き出しにあるような変化が見いだせるように次の①～③の視点を例示する。 ［①都心②河口③全体、周辺］	
	・市街地が広がった　・軍隊の司令部が城跡へ変わった　・太田川の道路が変わった ・太田川の河口部が埋め立てられた　・新幹線が通った　・山が住宅地に変わった		
10分	広げる 「今昔マップ」から見つけたことをペア（全体発表の前の助走）⇒全体の順に交流・整理する。	出された意見を黒板に箇条書きする。以下の視点を補足しながらまとめる。	
	城下町・軍事都市・工業都市・市町村合併・交通の発達		
8分	考える 見つけた変化のうち、人口の増加と関係ある事柄を選び、その因果関係を考え、クラゲチャート（思考ツール）に表現する。	思考ツールへの書き方を例示してから上記の視点にしぼって考えさせる。書けていない生徒に対しては、机間巡視で指導・助言を行う。	評価

12分	深める クラゲチャートにまとめた内容をグループ（4人程度・多面的な考えを知る）⇒全体の順に交流する。	出された意見を黒板に大きなクラゲチャートとしてまとめていき、人口増加がさまざまな要因によって起こされていることを示す。	
終末 5分	例）・なぜなら城下町として家来らが集まり、その後、軍都として軍隊が集まってきたから。 ・なぜなら河口の埋め立てにより住宅地が広がり、市町村合併により市域が広がったから。 ※まとめは、生徒それぞれがクラゲチャートを基にして自分の言葉で文章にまとめる。		
2分	○NHK for School「広島県の都市と人口集中」を視聴する。	人口増加に伴う問題点（災害への脆弱性、交通渋滞、住宅不足）を確認する。	

（4）板書計画



② 分科会での協議内容

・人口減少の視点ではなく、人口増加の視点での授業の取り組み方について。
・「今昔マップ」を使った他地域での活動について。

③ 成果と課題

・思考を視覚化するツールとしての「クラゲチャート」を活用していた点。
・個人思考とチームで対話のバランスをどう考えていくかが課題。

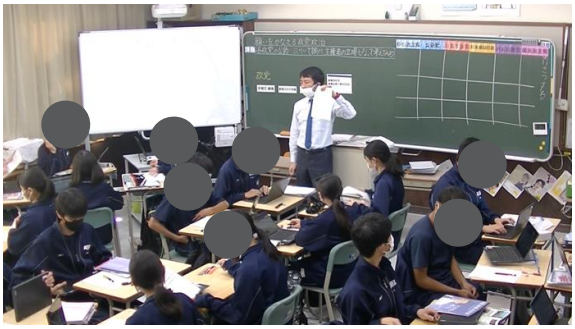
（１）交流内容（公開授業交流　動画視聴）

３年生　公民的分野　民主政治と日本の政治「願いをかなえる政党政治」

・授　業　者：相澤　智　教諭（千歳市立青葉中学校）
・本時の目標：「各政党の公約について調べ、主権者の立場となって考えてみよう」
①本時の様子

段階	○学習活動	＊教師の指導・支援	○学習評価
導入 10分	課題の提示 各政党の公約について調べ、主権者の立場となって考えてみよう。		
	○政党とは何か理解する。 ○国会に議席があるおもな政党名について確認する。	＊政党とは何かの説明をする。 ＊特定の政党の由来や綱領の細かい事柄に触れないようにする。 ＊おもな政党名の掲示。	

展開 35分	各政党の公約について自分が興味のある政策を調べてまとめよう。		
	○各政党の公約について調べる。 ○自分が興味のある政策を１つ決めて，マニフェストのパンフレットやchromebookを活用して調べる。	＊自分が興味のある政策を１つ決めて，各政党の公約について，マニフェストのパンフレットやchromebookを活用して調べることができているか。 ＊政策のキーワードを提示し，興味のあることがない人は，キーワードの中から1つ選び調べる。 キーワード 子育て・教育 新型コロナ対策 その他	評価 日本のおおきな政党が掲げる公約から，それぞれの主張を調べて政党について考えることができている。
	○調べたことをワークシートにまとめる。	＊調べ方について見本を提示する。 ＊最低２つの政党のことは調べられるようにする。 ＊机間指導。 ＊うまく調べられることができない生徒に対しての支援をおこなう。	
	各政党の公約について自分で調べたことをグループで交流しよう。		
	○各政党の公約について自分で調べて，わかったことを交流する。 ○なぜ，その政策にしたかも含めて交流する。	◇自分で調べたことを表現することができているか。 ＊政党には様々な立場があり，それぞれ国民から支持されていることを理解させる。	
終末 5分	クラスを国と置き換えて模擬投票をおこない政党に投票してみよう。		
	○Google formsを使って，資料にある公約や自分で調べた公約をすべて含めて，自分の考えに近い政党に投票する。	＊どこの政党に生徒が投票したかはわからないように配慮する。 ＊投票結果をホワイトボードに表示する。 ＊実際の７月の参議院選挙の結果と比較する。	
	○投票した結果から見て，自分がどう思ったかワークシートにまとめる。 ○ワークシートにまとめる。	＊ワークシートから見取る。	



② 分科会での協議内容

・デジタルツールでの調べ学習のより効率の良い使い方、資料提示の仕方について。

・互いに考えを深めていくためにどのような方法があるかについて。

③ 成果と課題

・現実の政権公約とデジタルツールでの調べ学習のハイブリッドでの活動していた点

・GoogleForms を使い、素早く学習者に考える種を与えていた点

・幅広い考え方であったので、学習者が多面的に考えることが難しかったところが課題

（２）協議内容（レポート交流を含めて）

討議の柱Ⅰ

公開授業の題材について、今後の授業に取り入れたり、役立てそうな事は何か？ 本日の授業以外の展開をするとしたらどのような展開があるか？

両授業ともに、様々な先生方の考えや意見を議論させることができた。「ICT の推進の中での実物の大切さ」や「思考ツールをどのように活用するか」など日常の授業で活かせる議論となった。

研究授業の視聴を通して、部会員が考え、学ぶきっかけになることが改めて実感することができた。

討議の柱Ⅱ　日常的実践において、悩みや疑問などについて交流を図る。

分科会では、視聴した研究授業についての話し合いの他、第二次研究協議会に持ち寄った実践レポートの交流を行った。前年度の部会員の意見を検討し、小グループでのレポート交流に加え、日常の実践等での悩みや各校での実践の工夫などを交流する形態で実施した。Google のブレイクアウトセッションを使用してのグループ討議であったが、先生方の積極的な取り組みによって交流することができた。

今年度の研究の重点である「思考・判断・表現の力を高める単元デザインの工夫を通して」生徒の資質・能力を高めることについて、活発な交流がなされた。

次年度も同様の形態で実施し、レポートの提出率や参加率を一層高め、有意義な時間となるようにしたい。

Ⅲ．教育課程の研究

１．研究の経過

今年度は、主に次の点について重点的に取り組んだ。

（１）新学習指導要領と新しい教科書についての情報収集と分析
（２）年間指導計画と学力テストなどの調整
（３）「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」についての評価の情報収集と分析

２．研究の成果・課題

昨年度から引き続き評価について部会全員で情報共有を行ったり、共通認識を持つことに力を入れた。今年度は特に評価についての情報収集、それを生かし指導についての分析を行った。評価の３観点については、事前に部会員にアンケート調査を行って、実態調査をして分析し、情報公開することで部会員の情報交流ができた。次年度も今年度の研究、情報交流を行ってきた評価について様々な新たな課題が予想されるが、有益な情報を部会員に提供できるよう努めたい。

Ⅳ．実技・理論研修会

１．研修会の内容

北広島市立東部中学校の佐藤泉英による、「スパイダーウェブ討論を用いた社会科教育の在り方」と題して、令和４年１月１２日（火）に講演をする予定である。

「対話」や「コミュニケーション」などをルーブリック（評価基準）を設定し、意識させながら行うことで、社会科教育で必要な資質・能力を養うことができる。また、振り返りの充実を図ることで、教師→生徒が主ではなく、生徒→生徒のフィードバックを通して、ピア・サポートできるチームの育成を図ることができる。

２．研修会の成果

教員自身が自ら実践することで、授業で取り組む際にはより深みのある討論を実施できるようになると考えられる。生徒自らが創り上げる授業のための１つの方策だと考えるので、今回の研修を機に様々な実践を積み重ねることができると考えている。

Ⅴ．部会研究の成果と課題

１．成果

研究主題「変化が激しい時代を乗り越え、自ら社会を創造する子どもの育成」を設定し、研究を進めている。大きな成果として、部会員が「単元デザイン」の重要さを理解し、自ら考え交流することで深めることができた点である。また、ＩＣＴの活用を含めた様々な思考ツールを使って、個別に考えやすい工夫の実践を積み重ねることもできた。

２月には各市町村の第三次研究協議会で部会員にレポート提出をしていただき、管内での実践の情報交流を行なっていきたい。充実した実践やレポートが揃っていることに期待したい。

２．課題

今年度まで継続して続けてきた「単元デザインの工夫」については、部会全体での共有することができた。今後は、目まぐるしく変化していく社会の中で、AI やコンピュータと共存し「人の強みや良さ」を生かすために「質問や対話」をする力が必要になってくると思われる。生徒が主役になり、子どもたちが創り上げる授業を目指す必要がある。

次年度からは、副題を変更し、当たらな研究に取り組む方向で検討している。部会員全員で新たな研究に取り組みながら、力強く自分の意思をもち、考え、堂々と未来へ向けて歩いていく生徒の育成のために、部会が一丸となって今後も取り組んでいきたい。

（文責　佐藤　泉英）